

低炭素社会の実現

温室効果ガスの削減

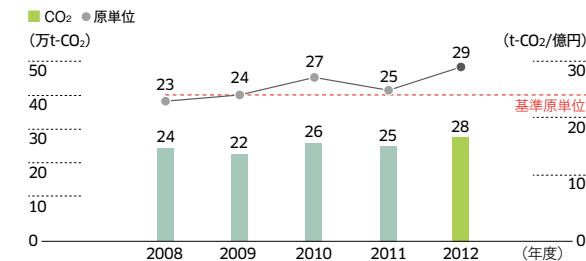
当社グループは、エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献することを目指しています。第8次計画では生産に係るCO₂排出量の削減と製品貢献によるCO₂排出量の削減に、それぞれ目標を設定して活動しています。2012年度を含めた第7次計画の実績を以下に示します。

京都議定書第1約束期間の目標として、2007年度を基準としたCO₂排出量原単位(CO₂排出量/売上高)を2008年度から2012年度の平均値で10%削減することを掲げていました。2012年度原単位は29、また5カ年の平均原単位25となり、目標22に到達しませんでした。この不足分にはCO₂クレジットを活用する予定です。

CO₂クレジットは、兵庫県「CO₂削減協力事業」として、川重冷熱工業製のA重油焚きボイラをCO₂排出量の少ない都市ガス焚きボイラに更新する共同削減事業で認証された国内クレジット2,580t-CO₂や、国連クリーン開発メカニズム(CDM)*を通じて発行されるCO₂クレジット(CER)などを活用します。

* CDM: 先進国と開発途上国が共同で温室効果ガス排出削減プロジェクトを実施し、その削減分を投資国(先進国)がCO₂クレジットとして獲得できる制度。

当社のCO₂排出量と原単位の推移



注1) CO₂排出量は、電力係数の影響を受けています。
 注2) CO₂排出量原単位は、CO₂排出量を売上高で割った数値を利用しています。
 注3) CO₂排出量は、地球温暖化対策推進法に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による企業別公表値です。

エネルギー使用量の削減

エネルギーの見える化推進によるエネルギー使用量の削減

加古川工場においてエネルギーの見える化設備を導入し、省エネ改善活動を実施しました。

加古川工場に導入した設備は、電力量だけではなく、都市ガス流量、圧縮空気流量、水流量、さらには圧縮空気圧力や気温などを計測しています。

2012年度は、これらのデータを分析し、50項目以上の無駄を見つけ、エネルギーを削減しました。

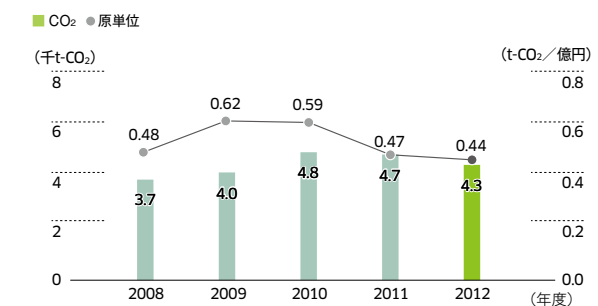
エネルギー見える化設備構成



物流過程における環境配慮

当社は、物流過程におけるCO₂排出量削減に向けたデータ把握と省エネ活動の推進を実施しています。当社の貨物輸送は、輸送トンキロ(輸送重量×距離)で評価すると、トラックによる輸送が約半分、残りは環境負荷の少ない鉄道や船舶による輸送となっています。2012年度実績は、CO₂排出量4,300t-CO₂、CO₂排出量原単位0.44でした。今後もトラックによる輸送の積載率向上やトラックから鉄道等へのモーダルシフトを検討します。

物流過程のCO₂排出量



注1) CO₂排出量原単位は、CO₂排出量を売上高で割った数値を利用しています。
 注2) 物流過程のCO₂排出量は、省エネ法に基づく特定荷主として算出した数値を示します。
 注3) 2008年度、2009年度は合併前の川崎造船などの数値は含まれていません。

製品貢献によるCO₂排出量の削減

2012年度に納入した主な当社製品によって、年間50万t-CO₂(試算値)の削減に貢献しました。エネルギー関連製品、輸送関連製品、産業機器・その他の製品によるCO₂排出量削減効果を20ページに掲載します。